

# 自主の旗

日教組  
和歌山

第600号  
記念号  
2004・6・11  
編集部発行  
☎073-436-6820

<http://www.wakayamanet.or.jp/greenpal/index.htm>

全員配布

日教組和歌山の機関紙「自主の旗」六〇〇号記念として、大阪教育大学の森実先生に執筆をお願いしました。森先生は、人権教育に関して、様々な分野で活躍されており、人権教育教材・実践集「わたし・出会い・発見」シリーズの監修はとて有名です。

## 状況をプラスに切りかえす

大阪教育大学 森 実

### 一. ポスト「人権教育一〇年」を展望して

教育は、生き続けるために人類がとった戦略でした。遺伝だけではどうしても新しい環境への適応力が制約されます。親の世代が獲得した能力を直接子どもに伝えることができません。教育という戦略をとることによって、人類は発展の機会を大きく広げました。その結果、世界中に人類は広がり、さまざまな文化や文明を生み出しました。ところがその影響への無自覚から、今や戦争による自滅、地球環境の破壊、他の動物の絶滅、不平等や差別の蔓延など、危機的状況を迎えるに至っています。これを乗り越える力も、教育に待たざるを得ません。

「人権教育のための国連一〇年」の最終年を迎えて、世界的にその後を求める声が高まってきました。その声は、国連のなかでも受けとめられ、「世界人権教育プログラム」の提案へとつながっています。

人権教育一〇年の枠組みから離れても、「国連・識字一〇年」（二〇〇三年～二〇一二年）、「国連・持続可能な開発のための教育の一〇年」（二〇〇五年～二〇一四年）とされています。

日本では、二〇〇〇年に人権教育・啓発推進法が制定されました。国際的な動きだけでなく、同和教育をはじめとする国内の人権教育運動によって、この法律は制定されるに至ったのです。

### 二. 和歌山の歴史と伝統

日教組和歌山が現在必ずしも大きな勢力となっていないと聞いています。しかしこのことは、これからの大きな発展可能性を示しているとも言えます。劣勢を余儀なくされている集団には、強みがあります。既成の価値観や特権など、失うものはないということです。むしろ、劣勢であるおかげで、新しいものにチャレンジし、新しい人々を見方にしようとする前に前向きになれます。いわば、冒険心が生まれやすいということです。伝統を見据えつつ、新しいものに積極的に取り組まれることをおすすめします。

和歌山県は、同和教育の伝統を古くから持っています。第二次大戦後、二・一ゼネストと関連する動きのなかで差別発言があり、それをきっかけに責善教育という名称でとりくみは始まりました。その後、県会議員による差別事件などをきっかけに、差別を生活実態と結びつけてとらえる教育実践が広がりました。その後も、先進的な活動が進められてきました。この歴史には、多くの教訓がこもっています。

この伝統を再び生かし、発展させることが求められています。その際、先に紹介した世界的な動きを受けとめ、世界とつながる形で未来を展望することが期待されます。

### 三. 提案されているさまざまな方法論

人権教育の視点や方法という意味で、世界からは学べるものがたくさんあります。先にあげたような課題は、すでに世界各地で取り組まれ、それなりの成果を上げています。

たとえば、アメリカなどで発展してきた多様性教育は、個別の差別問題だけではなく、さまざまな私たちの間にある違いから出発して、その背景にある差別をとらえます。特権・制度的差別と個人的差別・ホットボタンなど、さまざまな差別の問題を貫く問題をとらえる概念も位置付いています。

あるいは、ライフスキルトレーニングという一連の学習プログラムがあります。これは、薬物依存を克服するために一九七〇年代にアメリカで若者によって開発され、その後WHO（世界保健機構）が発展させたものです。これにはさまざまなタイプがありますが、いずれも人生を生き抜くために必要な概念やスキルを学ぶためのプログラムです。

### 四. 実態に即した人権教育を

こうした方法論を使えばよいというものではありません。私たちの前には、今の日本社会を生きる子どもたちの現実があります。この現実に対応した内容と方法でなければ、意味ある学習が成立するはずありません。私たちは、何よりも子どもたちの現実に対応した方法を開発し、それを活用する必要があります。その開発を進めるためにも、世界中の知恵を借用する必要があります。先に紹介したようなプログラムは、さまざまにあります。それらを活用すれば、日本の子どもたちが直面している困難状況の一端でも解決に向けられるのではないのでしょうか。

もちろん、日本の子どもたちの学習が豊かに勧められる上でいちばん参考になるのは、私たちの先輩である日本の教職員が培い、生み出してきた学習方法でしょう。生活つづり方や仮説実践授業、水道方式やひらがな指導など、今後とも発展させるべき方法論は、私たちの手元にすでにたくさんあります。

### 五. 広がりや深まり

日教組和歌山の皆さんが置かれた状況を生かし、これからの時代を切り開いて行かれることを応援しています。

森実先生監修の人権教育実践集「わたし・出会い・発見」シリーズパート4まで組合にありす。静かなベストセラーです。

